

語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう

ひと街じと

No. 19



二〇〇七年 春(年四回発行)
発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL(011)561-1597

編集：ひと街じと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目
北海道不動産会館四階

(有)編集工房海内
TEL(011)631-6651

りやカー売りは 宅配の原点だった

足が不自由だったり重いものを持たなかったりというお年寄りのために、電話などで食品や日用品の注文を受けて各戸へ届ける商売が増えている昨今ですが、振り返ればりやカーで野菜などを売りに来た時代と同じことのように。

異なるのは一軒一軒「今日はどうですか」と声をかけて売りに来たことを知らせ、集まった人たちの品定めを受けたこと。さらには値段の交渉あり、今度来る時の注文あり、果ては子育てや世間話までと、ひとときおしゃべりの花が咲きました。それにレジ袋などなく買物かごを持参。新聞紙やチラシが包装に活躍したのも。モンペに姉さんかぶり、厚手木綿の藍染めの前掛けなんていうスタイルも決まっていましたね。



札幌市民会館

初代は豊平館を公会堂代わりに
三代目四十九年の長い歴史に幕

役所や役場という名称はまだ健在ですが市民会館とか公民館といった建物は再開発でホールやプラザなどになっている例も多く馴染むまでに時間のかかるものです。札幌市民会館はその名のとおり温かかった――

覚えていますか、昭和31年7月の大通西1丁目手前は建設中のテレビ塔、向こうに見える豊平館



年三月一杯で役目を終えた札幌市民会館。いまほど芸術や文化に接する機会の少なかった時代から、ひとときそのかおりに触れさせてくれた大ホール――なくなる前に内外をしっかりと目に焼き付けてもらおうと二月に実施された見学会には、大勢の市民が駆けつけました。

その札幌市民会館の初代が豊平館であり、二代目はその北側に隣接する公会堂だったことはご存じでしたか。豊平館といえば、現在は同じ中



昭和2年、豊平館に隣接して建てられた公会堂。3代目札幌市民会館が出来るまでのメインホールに(上の写真とも札幌市写真ライブラリー提供)

ステージに見えるのは名残りを惜しむ見学ツアーの一行



最後にこのシートに身を沈めたのはいつだったか……

ロビーの造りも古き良き時代を象徴していた

中央区の中島公園内にある明治十三年建築の国重要文化財。この建物が札幌市民会館の場所にあつたのですから隔世の感？いえ、それほど古いことでもありません。

少し歴史をひもといてみますと、開拓使が建てた豊平館を札幌市(當時は札幌区)が借り受けて、公会堂のように使われるのが明治四十三年から。大正十一年札幌市の所有になった豊平館に隣接して、新たに公会堂が落成したのが昭和二年のことです。以後、名称を中央公民館(昭和二十三年)、札幌市民会館(翌年)と変えて様々な文化行事のメイン会場となりました。

しかし、その狭い舞台や不完全な防音、老朽化によるきしみなどが催しに支障を来たすようになりました。そこで昭和三十二年に豊平館を移築

し、翌三十三年七月、旧市民会館の撤去跡に新しい市民会館がオープンしたのです。

以後、ここへ足を運んだ人たちはどんなステージが記憶に残っているでしょうか。カラヤンとヘルリンフィルの演奏会、あるいは札幌交響楽団や身近な人たちのコーラス発表会。そして音楽ばかりでなく文学座などの公演も。

平成九年に札幌コンサートホール・キタラができて、音楽会場としての主役の座は譲った観がりましたが、ハイテク設備のほとんどない古さが醸し出す温かみに、親しみを感じてきた市民は多いことでしょう。

百八十五万人都市の中心部、こんなに大きな建物が四十九年の歴史に幕とは、時の流れを感じずにはいられません。

水に触れることもいやでなくなってきた春このころ
ペット人気に刺激されて熱帯魚でも飼ってみようかという人も
そこでホームページで見つけたのが
「下町の金魚・熱帯魚屋さん」を指している「こちら

人気種充実させて 目指すのは



下町の 熱帯魚屋さん。

ある専門店に。

とはいっても経営方針に下町風は貫かれており、「マニアの人には満足できないかもしれませんが、飼いやすいもの、

人気種を充実させて」（裕子さん）、常時百五十種前後を置いているとのこと。初心者からベテランまで幅広い需要に応えられることが、長くお店の続いている原因の一つでしょう。

開店以来ここまで、熱帯魚人気に多少の波はあったそうですが、「犬や猫ほどお金もかかりませんし、見ているだけで癒しになるのがよいのでは」と裕子さん。水槽その他の必要器具をそろえて、グッピーやネオンテトラなどから始めるとして、その費用は二、三万円。さらに面白



店内には金魚・熱帯魚が常時150種ほど



「見るだけでも気軽に来て下さい」と奥さん。飼ったことのない人もひととき夢の世界へ――

色とりどりの動き、見ているだけで癒しに



小さいながらも柄と値段で存在感
目下ブームのレッド・ブッシュリンプ

くなってきたらランクアップをというわけ、最近の人気者は熱帯魚ならぬエビ。体長わずか二センチほどの白い外殻に日の丸模様のあるレッド・ブッシュリンプというエビが何と一匹一万二千元。値段はさておいても、その可憐な動きにはうっとりです。

これから夏に向かって増えてくるのが金魚。金魚すくいでおなじみの小金でさえ、十年以上も生きて大きくなることも珍しくなく、飼う方の難しい一面もあります。裕子さんはその魅力を「人なつっこくて顔を覚えてくれるのは犬や猫に似ていますね」と。こちらも値段をみれば切りがないくらい様々な種類がありますが、もちろん安いものも中心です。

祐二さん制作のホームページには「自分も含めて熱帯魚屋には偏屈者が多い」という自己紹介がありますが、とてもそんな印象はありません。取材中に記者の熱帯魚失敗話をしたら、その原因を詳しく指摘してくれましたので念のため。

自転車販売店のいま、これから

現在お宅で使っている自転車はどこで買いましたか
パンクしたりブレーキが故障したりしたら
どこで修理してもらっていますか——
こんな質問に「自転車屋」という答えは
何人返ってくるのでしょうか
頑張っているんですよ、自転車屋さん

環境、健康——。 時代の要求に 歩調を合わせて。

店舗数は減少

先の質問のおそらく大半の人の購入先はホームセンターなどの量販店。故障したら新しいものを買って替えているという人も多いはずです。

こんな時代だから、昭和三十五年には全道で千九百店もあった自転車販売店が、現在では五百店ほどに減りました。全国一万三千店のうち半分以上が昭和三十九年以前に開業した店（平成十六年、経済省商業統計表）ですので、後継者不足も影響しています。減っていきことも考えられます。

しかし店舗数は減っても自転車の



専門店の技術力

こうした自転車販売店の戦後の歴史を逐一見てきた生き字引的存在、岡部自転車商会（札幌市中央区南一五西六）の岡部敏夫さん（七五）は「もう安いものは飽きられてきており、薄利多売の時代ではな

組合。小熊恭子事務局長によりますとその概況は「価格的には量販店にかなわないので、やはり地域に密着したサービス」。幅広い商品知識と高い技術力による修理ということです。同じ修理でも、親子や夫婦でやっている店は出張サービスにも力を入れ、高校生など故障した場所からの携帯電話で駆けつけるとか。

もちろん新車の品揃えでも、中にはマニア向けのスポーツ車やマウンテンバイクなどの高級車を増やしたり、店でサイクリングやクラブチームを作ってアフターサービスの一環としたりしているところもあるそうです。

技術力のある専門店の価値がこれから高まる」とみえています。



組合の副理事長でもある岡部さんは昭和二十四年にこの道に入り、現在地で独立したのが同三十三年といえますから、すでに五十年以上が経過しています。「昔は修理するのに一晩自転車を預からなければ追いつかないくらい仕事があったのに、今は待つともらってすぐできる」と様変わりをお話して、これからは信用の置ける店で質の良い自転車を買ってもらって、それを修理しながら長く乗ってもらうことが自転車店の生き残る道と。



出張サービスに力を入れる春木直人さん



岡部自転車商会は親子、孫の3代で経営に（下は店内）

同じ三代目でも祖父の創業が昭和十年、キャリア二十年というのは春木自転車商会（同南区真駒内上町五）の春木直人さん（四〇）。こちらも歴史があるだけに古くからのお客さんをつかんで、出張サービスに力を入れています。定期点検で訪問する顧客は多い日で一日百軒。「表で修理しているところを見た人が新しいお客さんにつながることも」（春木さん）。新車が売れてくれなければ修理で利

益を上げることができませんが、長年の信用で値切る人もいません。

経営を維持していくのに冬場は除雪の仕事を請け負っていますが、東海大学スキー部の夏場の練習として一緒に自転車まで遠出ししたり、ママチャリ大会（後述）に出場したりと、根っからの自転車好きを自認しています。

NO!! 使い捨て

新 車を売ることのでつながら新たな商機。それは修理だけではないようです。北都イワキ商会（同北区太平一〇一五）で目の当たりにしたのは様々な部品のコーナー。ワイヤー錠、バックミラー、ライト、グリップ、ハンドル、サドル、グローブ……個性派のサイクリストには選ぶ楽しさが一杯というところ。



部品コーナー（下）を充実させて修理に余念のない岩城賢治さん

広い店内に数百台はあろうかという新車も、店長の岩城賢治さん（五二）によるとすべて「部品を売るためのもの」だそうですが、その目は少し違ふところを見ているようです。というのも、そもそも開業した二十数年前は第二次オイルショックの後、化石エネルギーを必要としたものを売る仕事をしたと始めたのがこの商売だからです。



専門店として「当たり前」のことに当たり前にやりながら「岩城さん」、クチコミでお客さんが遠くからでも足を運んでくれるまでになった今、周囲が「暖冬異変に気付き始めたこと」がとてもうれしいと。自分がスタートのときに描いた化石燃料に頼らない社会に変わってきたという実感にほかなりません。

この環境保護の面からの自転車の需要の高まりは、業界でも期待していることでもあります。前述の岡部さんも「環境に優しい自転車が見直されている」と、組合が主管団体の一つとなっているママチャリ耐久リレー大会の成長に目を細めています。同大会は札幌モエレ沼（東区）特設コースで、規定時間内の周回数を決めるもので今年七回目。参加チー

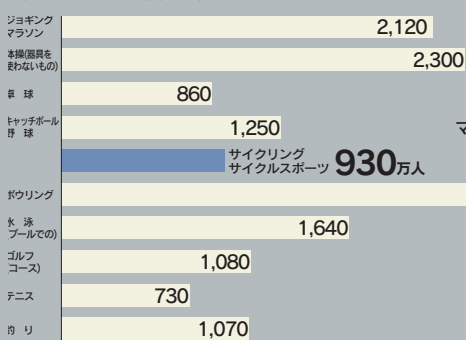


今年は6月24日に行われるママチャリ大会のパンフレット

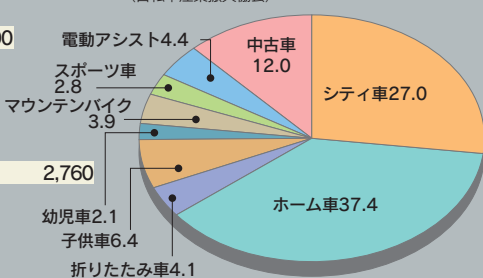
ムや応援団も含めると五千人が集う一大イベントです。また一方で世の中の健康志向が強まり、団塊の世代は高級車へシフト。粗悪な自転車、放置・廃棄を減らそうと良質な仕様であることを証明する安全基準（BAAマーク）、自

転車協会も設けられました。これに使い捨てを見直す動きが加速されて、自転車の将来は決して暗くはありません。それだけに、需要増とそれに応えるだけの技術を持った自転車販売店の真価がこれから問われることになるでしょう。

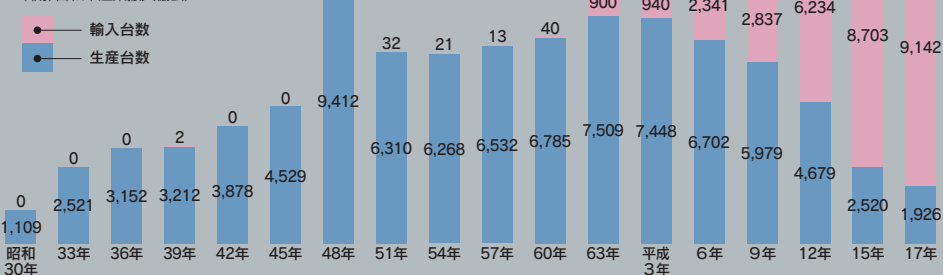
●平成17年：スポーツ部門における余暇活動参加人口（万人）
（『2006 レジャー白書』から）



●平成17年度：自転車販売店1店当たりの車種別販売台数割合（%）
（自転車産業振興協会）



●自転車生産・輸入統計（千台）
（（財）自転車産業振興協会）



※同大会の「ママチャリ」とは、タイヤサイズが二六インチでハンドルの前部一・五のベットボルトが四本収納できる前カゴが付いた三段変速以下の一般市販ホームサイクルまたはシティサイクル（無改造車）のこと。

「昭和の町」(大分県豊後高田市)

豊後高田市

マスコミでもよく取り上げられて、いまや元気のある商店街として全国に知られる豊後高田市(大分県、人口二万六千人)の「昭和の町」。今年一月末にそこを駆け足で訪れる機会があったスタッフのミニレポートです。



大 型店の進出、後継者のいないことなどからシャッターの下りた商店があちこちに見られるのは全国的なこと。しかし一方で、その活力の衰退した商店街をよみがえらせようと頑張っている人たちがいるのもまた周知のとおりです。

古いものが新しい! 年間観光客20万人 5万点展示「駄菓子屋の夢博物館」

豊後高田市の中心商店街が選んだ活性化策は、昭和三十年代以前の建築が多く残る「町の古さ」を活かそうということ。平成十三年、建築だけでなく歴史、商品、商人という四つの古さを柱とする「昭和の町」づくりがスタートしました。

歴史とは、国東半島一番の賑やかな町として栄えたのですから、各店に伝わるお宝があるはずと、その展示を(一店一宝)。さらには自慢の商品を販売しながら(一店一品)、お客さんとの会話、交流を大切にしてい(商人再生)ものです。

現在参加しているのは四商店街三十八店舗で、「現役足踏みマシン」「アイスキャンデーの行商自転車」「昭和の値段のチャンポン」など、お宝や商品にも懐かしさが漂います。

町の中核施設となっているのが地元豪商の蔵を改造した「昭和ロマン蔵」。

日本一の駄菓子コレクターといわれる小宮裕宣氏が館長の「駄菓子屋の夢博物館」と「昭和の絵本美術館」があります。夢博物館に展示されているおもちゃの数は、同氏の二十万点のコレクションの中から厳選された五万点。昭和世代ばかりでなく現代の子供たちにも大人気の不思議な空間です。

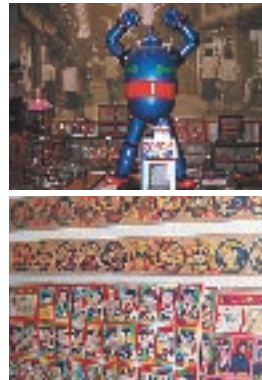
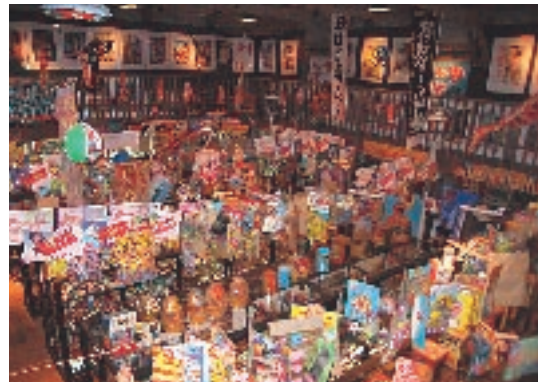
町づくりが始まって六年目。かつては「犬と猫しか歩いていない」とまでいわれた町に、今では年間二十万人の観光客が訪れるとか。五人いる「昭和の町ご案内人」(ガイド)にも予約待ちが出るそうです。

大分県といえば一村一品運動の元祖。その運動がこんなかたちで受け継がれているともいえますが、それよりも「町を何とかしなければいけない」という決意と情熱が見事に結実した好例ではないでしょうか。



昔懐かしい駄菓子やおもちゃ、映画ポスターなど「駄菓子屋の夢博物館」では「あの時代」にタイムスリップ

商店街って、こんなに温かくて人情味あふれる通りだったんだ……



道具で

道草30年

人の心まで温かくしてくれる薪ストーブ
それも煙突を掃除してくれる人がいるまでのことか
何やら美しい日本の来し方行く末にも似て……

坂一敬

レトロスペース坂会館・館長(坂東養食品開発部長)

我が家では冬はずっと薪で暖を取っていた。おそらく札幌か石炭のストーブだったはずだ。家を建て替える時、時代はもう灯油になっていた。しかし私は化石燃料を燃やすことがいかに大気を汚し、ちり紙一枚燃やすことのできないストーブではゴミを限りなく増やすだけだと父母を説得し、そのための集合煙突を二本、設計に組み込んでもらった。

年に何回かは煙突掃除が必要なのだけれど、それは従来からの元近衛兵のおじさんが引き続きやってくれることになった。おじさん曰く「古い家は廃材として投げないで、薪として使った方がいい。何年かは薪は必要ない」。事実、五年以上はわたり古い家の材木は我が家を暖めてくれた。よく乾燥しており、特に松や杉の柱は油分があるのできれいな赤い炎で燃えてくれた。

薪はどんなに乾燥していても水分を含んでおり、それが燃えながら蒸発してくれるので室内が乾くというわけではない。こうして我が家は曲がりなりにも薪ストーブでやってきた。去年の一月二日。布団を抜け出し

薪ストーブと元近衛兵氏のこと。



筆者の自宅で使用していると同型の薪ストーブ。焚き口本体の上さらに二段の煙の通る空洞がある(コレクションから)

い煙も出ず、よい香りがする。とくに赤いろうそくは命が燃えているように感じられる。「私もまだ燃やすものが残っているのだから」などと考えるながら寝間着に着替え、ストーブの前に置いていたロッキングチェアに腰を下ろし、好きなドーナツ盤をかける。パチパチという木のはぜる音を聞きながら、想いをめぐらす。そしてガウンを脱いで布団の中に滑り込み、近くのお寺の除夜の鐘を聞きながら眠りに落ちていく。

薪はどんなに乾燥していても水分を含んでおり、それが燃えながら蒸発してくれるので室内が乾くというわけではない。こうして我が家は曲がりなりにも薪ストーブでやってきた。去年の一月二日。布団を抜け出し

ストーブに火をつけ、また布団に戻って室内が暖まった頃を見計らってドアを開けると、室内に煙が充満して何も見えない。一瞬何が起ったのだろうと思つた。煙突がススで詰まり、煙が集合煙突に入らず逆流してストーブからモクモクと噴き出していたわけ。煙突の動脈硬化だ。寒いなどと言つてはいられない。家中の窓を開け、とりあえず煙を外に出した。元近衛兵のおじさんに電話をと思ったのだけど、いくら何でも正月早々の煙突掃除は頼みづらい。十分ほど躊躇した挙句ダイヤルを回した。嫌そうな素振りをまったく感じさせない声で「すぐ行きます」といい、いつ

もどおり来てくれた。煙突の中に一杯詰まったススを室内にまったく落とさない鮮やかな手口、外の雪の上にも一片のススも見当たらなかった。掃除が終わって、薪が音を立てて燃えるストーブの側で飲みながら話をした。年に数回しか会わなくても鍵を預けて外出できる付き合ひだった。もう後をやる人はいないという。「もし電話をかけてつながらなくなっていたら、この世にお別れしたということですよ。」

気が続かないことは容易に想像がつくところです。預けておいただけで年表が出来上がるとは考えにくいでしょう。

子供たちとしても記録を残し

家族で開きたい「記憶たどる会」

ておきたいからには何らかの手助けが必要です。そこで最も手軽で自然なのは、お孫さんも含めた家族の共同作業。いくつかのテーマを決めての、家族会議ならぬおしゃべり会を開くの

はどうでしょう。こちらが質問役、聞き役に回って、ご両親の記憶を刺激してあげます。

自分史づくりに限らず、お年寄りの脳の働きを活発にする方法の一つは、昔の話をすることです。幼い頃から青年時代まで、遊びや食べ物のこと、住んでいた地域の様子、どこかへ出かけたときのことなど、いろいろ質問してあげると驚くほど雄弁になるものです。

実際、昔の道具や古いニュース映画を見てもらいながら、記憶をよみがえらせることで老化

を防止する療法が行われている例もあるほど。要は上手に聞き役に徹して、話を次から次へと引き出してあげることです。

もちろんこうして出てきた話をうまくまとめるのは子供たちの作業ですが、その巧拙はともかくとして小冊子にでも仕上がれば、後世に残るささやかな自分史といえるのではないのでしょうか。

本づくり相談室

Q 両親に自分史勧めたが

両親に自分史をまとめてもらおうと、まずは記入式の年表ノートをプレゼントしましたが、いつ覗いても真っ白です。何か良い方法はありますか。

A 聞き上手になる

ご両親の年齢がいくつか分かりませんが、総じてお年寄りには文字を書くことは億劫ですし、ましてノートに向かってなど根

何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。いつもそこにある時計に、足を止めることを忘れていませんか。



幾多の出会いと別れ見つめて。

記憶にある学校の時計はどんなかたちをしていますか。小中学校などは大抵は運動場に面した校舎の最上部真ん中に、どこから見ても分かるような大きな円形のものがありましたね。こちらは北大農学部本館の塔屋にある時計。ギリシャ彫刻風の重厚な装飾、三連の縦に長い窓、さらには前庭のエルムの木々とも一体になって、いかにも威厳に満ちています。大学構内の主だった建物はほとんど近代的なものへと生まれ変わり、昔の姿をよどめるのは昭和四年建築の理学部と十年のここだけになりました。幾多の出会いと別れを見つめてきた貴重な歴史遺産といえます。



出版 News

句集「湾」 花田星河



(A5判392ページ)

七百二十六句を一ページに二句ずつ収めた大部な句集ですが、それをせいたくとは感じさせないのは、おそらく作風のせいでしょう。

作者は松前郡福島町在住で、昨年四十年にわたる公務員生活を終えた

ことを機に出版を思い立ったもの。

湾部落、夏霧、海霧襖、残雪光、冬雲という四部構成になっていることでもわかるように、眼前に津軽海峡、背後に大軒岳のそびえる生活の場が心象風景のベースになっており、それが句にもにじみ出ています。また跋文に、ひところは母と子どもに關する俳句なら「星河」といわれるほどであったとあるとおり、生活記録の一端を詠んだものも。

地吹雪や息をひそめし湾部落 海にだけ耳もつ漁夫に春近し 冠雪の千軒駆けて父逝けり 妻と子の線香花火の落ちるまで 生きている血の温もりの七日粥

編集室

新年度を迎えて再建団体に指定された夕張市の特集が各紙で相次いでいます。石炭から石油へのエネルギー転換、観光・リゾート政策の破綻など、戦後日本の歩みの縮図のようであることではありません。札幌一極集中がこのまま続けば、第二、第三の夕張も出てくるでしょう。本州の真似をするばかりでなく、北海道らしいゆっくりとした歩みを取り戻す必要もあるのではないのでしょうか。

札幌集中といえは、隣の小樽市の人口が八十三年ぶりに十四万人を割ったそうです。小紙でも同市の人や仕事を取り上げてきているだけに残念なことです。最も人口が多かったのは昭和三十九年の二十七七千人とか。街の魅力は現代のほうがよりクローズアップされているはずですから、経済の低迷が人口減を招いているのでしょうか。六ページ豊後高田市のように、観光客の入り込み増が人口増加につながればよいのですが。

● 自分史セミナーの「出前」します

印刷紙工では毎年、定期的に本づくり講座を開いていますが、都合で来られなかったり、お仲間だけで話を聞きたいという人のために、本づくりセミナーの出前を行っております。三人以上のお集まりで、会場をご用意いただければ、日時を相談の上、編集者と印刷担当者がお伺いして、いろいろとアドバイスをさせていただきます。

● 記念誌づくりもお手伝い

企業や団体の節目の設立周年（二十年、三十年、五十年）にちなんだ記念誌づくりもお手伝いいたします。企画から承ります。

● 小紙をお送りします

希望の方には、定期的に無料でお送りしております。印刷紙工までお申し込みをお願いします。

